

「知の拠点づくり」 構 想



令和2年12月

田根地区・地域づくり協議会

基本的な考え方

2007年3月に田根地区・地域づくり協議会を設立して以降、慶應義塾大学やマサチューセッツ工科大学（以下、MIT）を中心とした国内外の大学との協働ワークショップを実施する中で育んできた将来構想「知の拠点づくり」に向けた取り組みを行う。

趣旨・目的

移住や定住に固執せず、関係人口や交流人口の創出を図るため、令和2年度に地域活性化センターの助成を受けて実施した「森のほとりで職人の技を学ぶ、体験型交流事業（以下、体験型交流事業）」の経験を活かし、大学の研究活動や企業の研修などの誘致を進め、地域全体を「知の拠点」として幅広い知的交流の展開を目指す。

構想の概要

構想の契機

この構想は、協議会設立間もない頃、当時のMIT教授が慶応大学小林研究会とワークショップのために田根地区を訪れた際、「田根は屋根のないキャンパスだ」と言って西池のほとりで野外講義を行ったのが契機である。

現在までの経過

2007年以降、MITと慶応大学は毎年田根を訪れ、ワークショップを通して地域との交流を深めてきた。特に、2010年7月に開所した高齢者デイサービスセンターは、MITの提案を受け、慶応大学が設計し、県社会福祉事業団が建設し運営している地域内唯一の高齢者施設であり、大学との交流が「高齢化」という地域課題解決の一助となった事例である。

構想のイメージ

構想のイメージは、MIT研究所「メディアラボ」である。メディアラボは、仕切りのないスペースに複数のグループが同居し、グループ間の垣根が低く、互いが刺激と協調の中で研究に取り組んでいるという。田根では、仕切りはもちろん建物の概念もなくし、様々な団体が住民とともに研究や研修ができる「地域環境」を実現しようというものである。

2011年にはMIT生2名が4か月あるいは6か月間、田根の空き家に滞在し研究を行なった実績がある。内1名はインターン生として滞在した。こうした実績とともに、現在でもMIT卒業生やメディアラボ元研究員との交流がある。また、田根でワークショップを行っていた学生の中には、現在大学で教鞭をとる者もいることから、こうしたつながりを大切にして構想の実現を目指す。

なお、2009年にメディアラボを設計した建築家の孫（慶応高校生）も今回の体験型交流事業に特別参加、3度目の来訪となった。こうした「縁」も大切にして「知の拠点づくり」構想の実現を目指す。

事業内容

◆ 受入体制の確立

・ 受入可能空き家の整理

体験型交流事業において整備した空き家を中心に、空き家のネットワーク化を図り、関係人口や交流人口の受け入れを行う。

また、協議会自らが運営する空き家バンクを設立し、空き家の情報提供とともに、移住に伴う就職や教育など暮らし全般の相談体制を確立する。

・ ホームステイ可能家庭の整理

将来的には、より地域住民との交流が期待できるホームステイによる受け入れも可能にするため、ホストファミリーを募集し登録制度を構築する。

・ 食事提供体制の確立

地元の食堂等を活用したケイタリングやテイクアウトの体制を整えるとともに、今後は長期滞在を念頭に自炊等に必要な設備を整備する。

・ 入浴体制の確立

短期滞在者には、民間温泉施設（須賀谷温泉、姉川温泉、健康パークあざい）など近隣の有料浴場の活用を促し、長期滞在者に対しては、体験型交流事業で行った修繕工事や給湯設備工事により利用が可能になった空き家などを活用する。

・ 移動手段の体制確立

地域内移動の手段としては、より地域の自然や文化を身近に感じることができ、地域住民との直接的なふれあいが期待できる自転車を念頭に、地域住民からの無償提供によるレンタサイクル体制を整える。

・ エリアマップの作製

自転車等による地域内移動時に活用する見所や食事処の入ったエリアマップを作製し、自由な散策を支援する。

また、紙媒体だけでなく、来訪者自身が気に入った場所を随時追加できるようなデジタル化したマップも作製する。

◆ 交流団体の拡充

・ 体験型交流事業参加者や過去の交流経験を活かし、団体や個人への働きかけを行う。

・ 体験型交流事業で行った視察先の和歌山市加太地区の東京大学川添研究室・地域ラボを参考に、国内外の大学関係者による研究のフィールドとして田根

地区を紹介する。

- ・ 2011年に、MIT生が田根地区においてインターンシップを行った経験から、大学生によるインターンシップ先としての利用を推進する。
- ・ 可能な限り個人ではなく大学や企業など組織との交流を目指し、一過性ではなく長期的で継続性のある交流を目指す。
- ・ サテライトオフィスやテレワーク、ワーケーションなどの拠点として地域の環境を整備し、大学に限らず企業やNPOなど幅広い交流を目指す。

◆ 外部キーパーソンとの協働

- ・ 地域おこし協力隊や大学・企業関係者など外部キーパーソンの中長期滞在を促進し、協働による「知の拠点づくり」構想の早期実現を目指す。
- ・ 体験型交流事業において整備した空き家を拠点とし、交流団体の拡充や交流事業の企画立案をするキーパーソンとの協働により、空き家を活用した関係人口・交流人口の創出に向けた取り組みを積極的に行う。

◆ 移住者、関係人口、交流人口のネットワーク化

- ・ すでに移住している人、今後移住したい人、時々訪ねてくる人、以前訪れたことのある人など様々な立場で田根と関わりのある人をネットワーク化し、個人を線でつなぎ、面として拡大し、空間としての立体化を図る。

個別事業計画(案)

① メルボルン大学&慶應義塾大学による田根ワークショップ

事業概要

- このワークショップは、メルボルン大学の12週間にわたる建築デザインコースの一部(4泊5日)として実施。田根地区での生活を体験し、日本文化と触れ合い、日本建築について学ぶことが目的。

事業日程

日程	内容
1日目	夕方：田根到着 ウェルカムパーティ、交流会
2日目	午前：田根レクチャー、空き家見学 午後：住民と大学生の意見交換(大学生との国際交流)
3日目	終日：ビルディングワークショップ(日本建築の体験)
4日目	終日：ビルディングワークショップ(日本建築の体験) 昼食：田根小学校で給食(児童と大学生の国際交流)
5日目	午前：田根出発

事業内容

- 地元住民との交流
空き家見学、住民や職人へのインタビューとアンケート調査
- 日本の伝統構法を学ぶ
地元職人の指導を受け、小さな茶室(2m×2m)を制作
空き家の廃材や古材などを再利用

大学生の学習目標

- 地域活性化活動の実態や田根の活動を知る
- 田根の暮らしを観察し、個人またコミュニティの実態を探る
- コミュニティにおける住民それぞれの役割を知る
- 集落内で資源・技術・知識がどう受け継がれ、共有されているかを知る
- 職人指導のもと、実際に建物を作り日本の伝統構法や技術を学ぶ
- 地域課題の解決に向けた小規模プロジェクトを提案する

参加者

- メルボルン大15名 + 慶應大5名 = 20名程度

② 東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラムの受け入れ

事業概要

- ・ 地域が提示した課題に対して、解決の道筋提案に向け、学生が1年をかけて事前調査（活動計画立案）・現地活動・事後調査を行う東京大学のプログラムのフィールドとして田根地域を提供し、地域住民も共に考え、行動する。

事業日程・内容

日程	事業内容
4月	オリエンテーション（東京大学で全国各地域からプレゼン） 大学内で学生募集開始
5月	大学内で参加学生の選考・決定
6～7月	ワークショップ（4回程度）、大学内で事前調査 オンライン形式による交流
8～9月	田根地区で活動（1回）、オンライン形式による交流
10～1月	ワークショップ（田根地区での活動振り返り）、 大学内で事後調査、オンライン形式による交流
2月	ワークショップ（発表前打合せ）
2～3月	報告会（田根地区、大学内各1回）

参加学生

- ・ 東京大学の学部生または大学院生 2～5名

③ 慶応義塾大学による研究会活動の受け入れ

事業概要

- ・ 慶応義塾大学で「教育」と「コミュニケーション」に関する研究会活動のフィールドとして田根地区を提供し、特に田根小学校（児童数49名）のような小規模校における教育の在り方や地域の関わり方についての実践的な研究を行う。

事業日程

日程	事業内容
4～5月	研究会内で参加学生の募集
6～7月	担当准教授と地域住民との顔合わせ、活動計画等打合せ
8～9月	田根地区内で准教授と学生が滞在し研究活動
10～3月	関心のある学生が単独または複数で訪問、滞在

事業内容

- ・ 田根小学校をモデルに、全国の小規模校の今後の在り方としてオンライン授業やデュアルスクール等の可能性と課題について研究を行う。

参加予定者

- ・ 研究会所属学生4名 + 准教授1名 = 5名程度

④ 大阪大学による田根ワークショップ

事業概要

- ・ 大阪大学でソーシャルイノベーションやソーシャルデザインを学ぶ国内外の学生が担当教授とともに田根地区の暮らしを体験しながら学ぶ。その後、関心を持った学生が単独または複数で学びのフィールドとして訪問、滞在を繰り返す。

事業日程

日程	事業内容
4～5月	大学内で参加学生の募集
6～7月	担当教授と地域住民との顔合わせ、活動計画等打合せ
8～9月	田根地区内で教授と学生が1週間程度滞在
10～3月	関心のある学生が単独または複数で訪問、滞在

事業内容

- ・ 地元住民との交流、日本の中山間地の暮らし体験

参加予定者

- ・ 留学生15名 + 日本人学生5名 + 教授1名 = 20名程度

⑤ 慶応義塾大学留学生による異文化ソーシャルワーク

事業概要

- ・ 大学院でコミュニティのための異文化ソーシャルワークに取り組む留学生が、田根地区の暮らしを体験しながら自身の研究を行う。

事業日程

日程	事業内容
未定	田根地区内で、留学生が中長期滞在し研究活動を行う

事業内容

- ・ 自身の研究とともに、異文化ソーシャルワークを通じて地元住民との交流を深める。

参加予定者

- ・ 留学生（博士課程）1名

⑥ 地域おこし協力隊等との協働による知の拠点化事業

事業概要

地域おこし協力隊や大学関係者などと協働して、大学の研究活動や研修の場、企業のサテライト事務所、テレワークやワーケーションの拠点などの誘致を進め、地域全体を「知の拠点」として幅広い交流の展開を目指す。

事業日程・内容

日程	事業内容
5月	・地域おこし協力隊等の募集
7月	・地域おこし協力隊等の地域配置決定 ・地域おこし協力隊等と協議会の顔合わせ、活動計画等打合せ
7～10月	・大学等への訪問、ヒアリング ・ヒアリング内容について協議会と共有
11～2月	・大学等の試行的受入事業の実施
3月	・試行的受入事業の報告会 ・次年度に向けた活動計画（案）の作成

訪問予定の大学等

- ・ 慶應義塾大学（小林教授、長谷部准教授）
- ・ 東京大学（川添教授、青木准教授）
- ・ 大阪大学（三森教授）
- ・ 名古屋工業大学（岩本助教）
- ・ ミシガン州立大学連合日本センター（永富教授）
- ・ NPO法人ミラツク（西村代表理事）

